（モニタリング）

環境放射線センターの環境モニタリング業務（１）

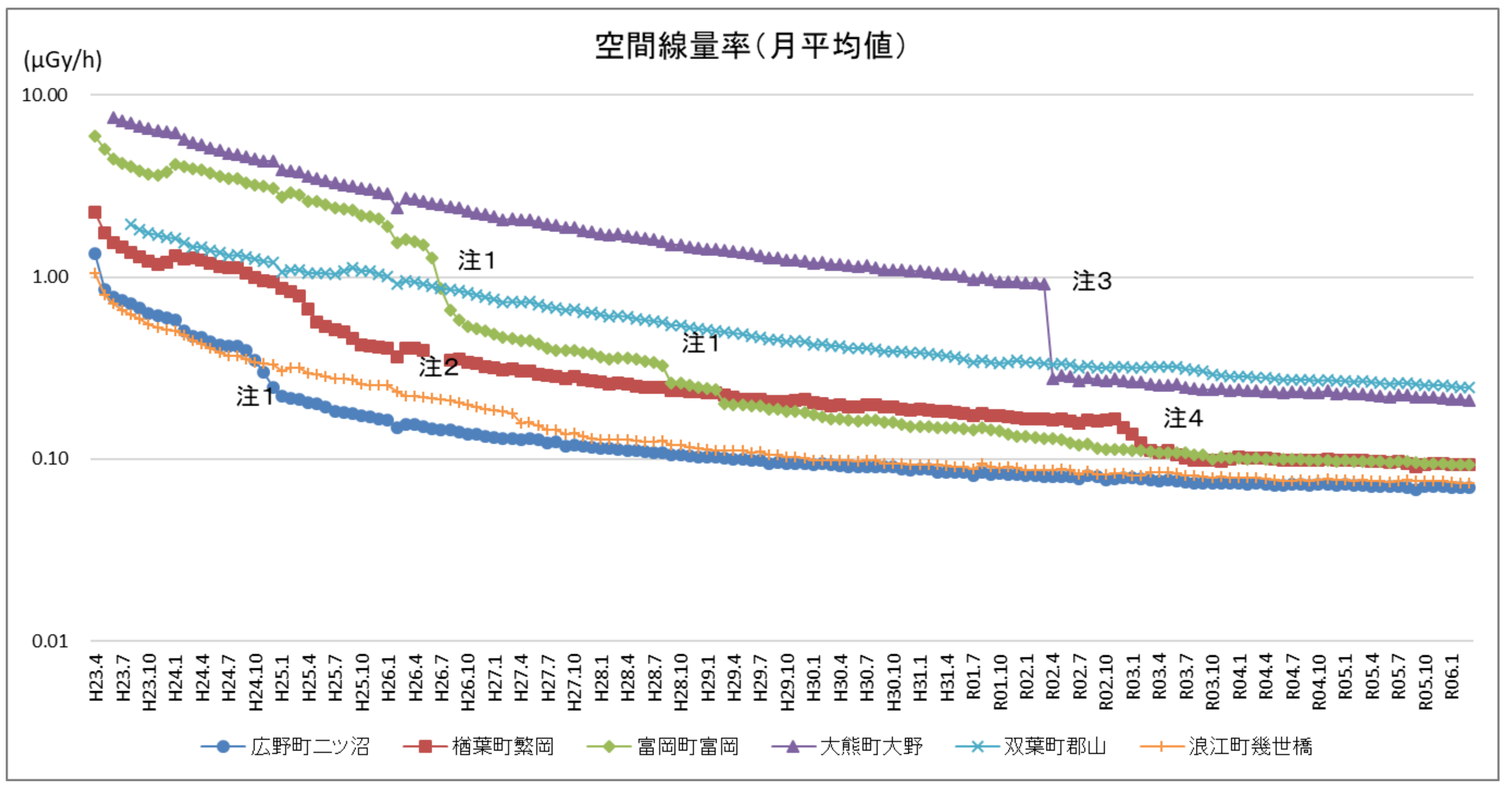
福島県環境創造センター環境放射線センター

原子力発電所の周辺地域で行っている環境モニタリングのうち、特にモニタリングポストで測定した空間線量率及び連続ダストモニタによる大気浮遊じんの分析結果の概要を報告する。空間線量率は年月の経過とともに減少する傾向にあり、大気浮遊じんは前年度に比べて概ね横ばい傾向となっている。

空間線量率の測定状況

県では、原子力発電所の廃炉作業等において発電所から環境中へ放射性物質が放出されるのを監視するため、39地点にモニタリングポストを設置して空間線量率等を測定し、テレメータシステムを経てホームページで公表しています。

各地点における月間平均値は、年月の経過とともに減少する傾向にあります。



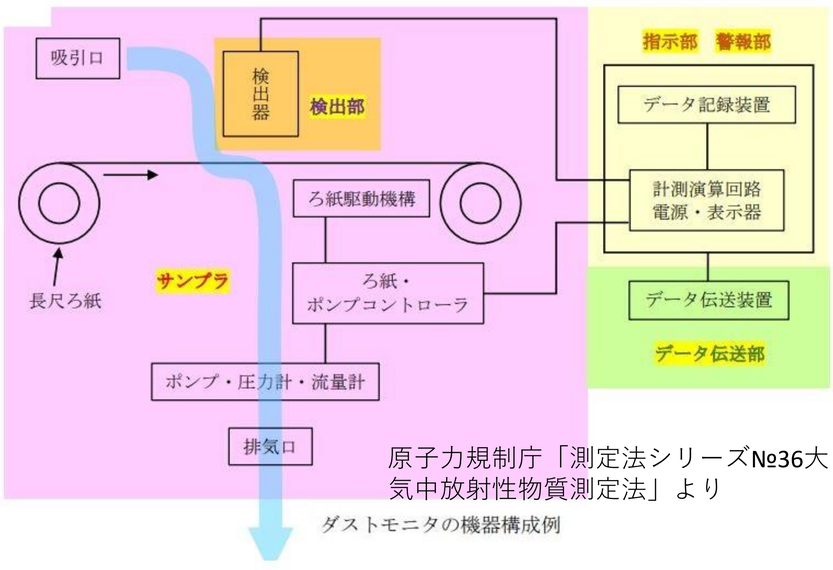
注1：除染による減少、注2：欠測
注3：大熊町大野は令和元年度末に局舎を移設したため、令和2年度より旧大熊町役場敷地内で測定を行っている。
注4：隣地において造成工事が行われたことによる低下

県モニタリングポストの配置
（発電所約10キロ圏内を掲載）

大気浮遊じんの分析結果

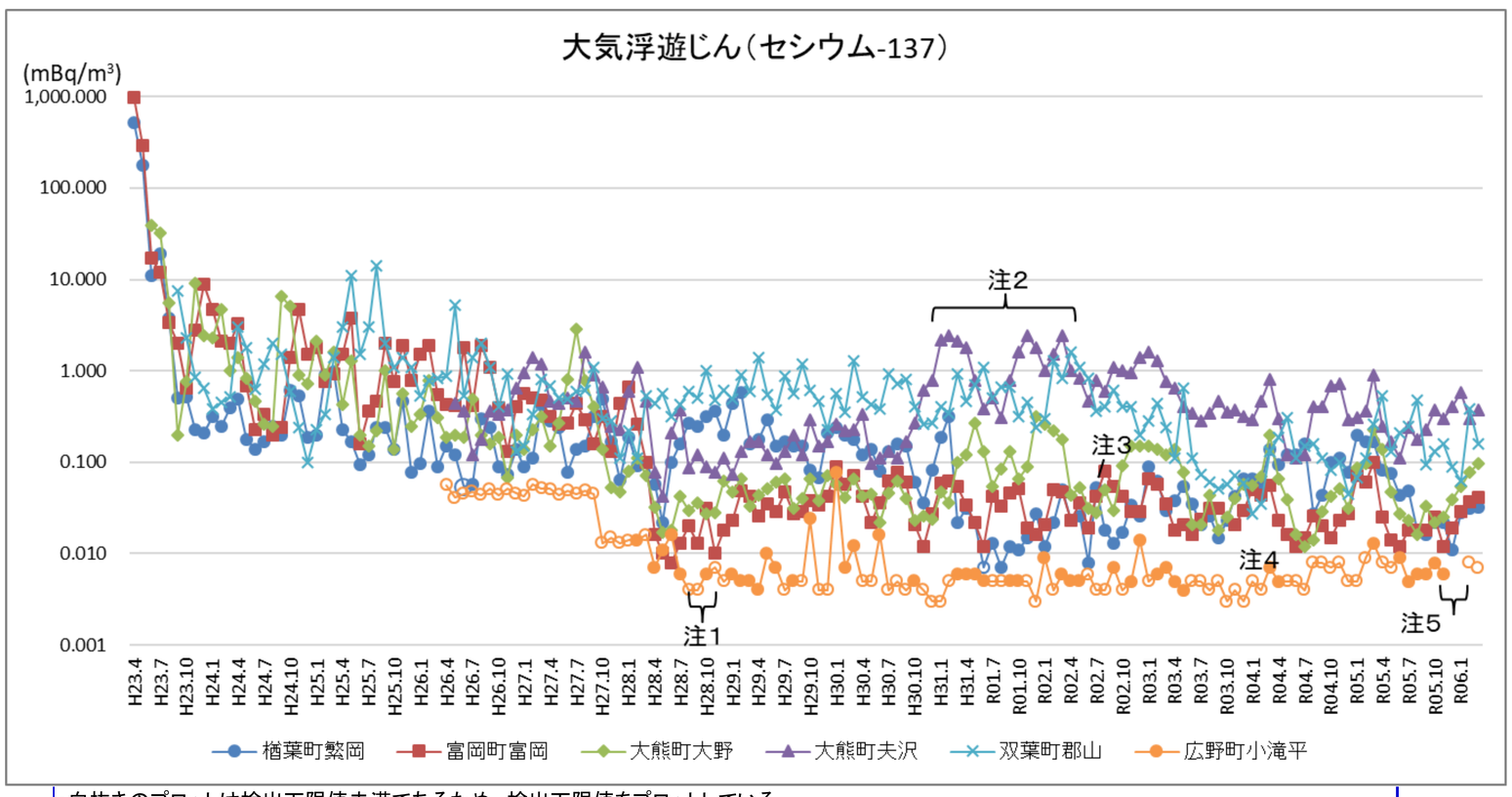
土壌や上水、海水等の様々な環境試料を採取・分析していますが、ここでは特に連続ダストモニタで大気を1ヶ月間吸引したろ紙を分析した結果を示しています。

^{137}Ｃｓの測定値を前年度と比較すると概ね横ばい傾向になっています。



原子力規制庁「測定法シリーズ№36大気中放射性物質測定法」より

ダストモニタの機器構成例



・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。
・事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出下限値が高かったが、平成28年4月（点線）から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。
注1：富岡町富岡は機器不具合のため平成28年7月から10月は参考値
注2：大熊町夫沢が平成30年度及び令和元年度の秋期～冬期にかけてセシウム-137濃度が上昇した要因は、土木工事により局舎周辺が裸地化し、風によって微細な土壌粒子が浮遊しやすい環境となり、強風により浮遊した土壌粒子を捕集した影響と考えられる。
注3：測定地点を、福島県旧原子力センターから大熊町旧役場庁舎に令和2年4月1日から変更した。
注4：富岡町富岡は令和3年10月6日に実施した屋上の防水塗装作業時、粉じんを吸引したと考えられるため、令和3年10月を欠測とした。
注5：広野町小滝平局において局舎耐震化作業に伴い連続ダストモニタを停止し、ハイボリウムエアサンプラの代替測定による参考値のため、プロットしていない。